

## 未来の出来事 10

わたしは答えました。

「二人位ですわ。」

羽目太郎監督は納得した顔をすると、

「ようし、それではアンドロイドを入れてくれ。」

と指示する声に、助手は走るようにしてスタジオの一つの小屋のような場所に行ったの。

小屋から出て来たのは筋肉質の男だった。ボディビルダーのような体。その彼はノッシノッシと私の居るベッドまで歩いてくると、両腕を上げてガッツポーズをしたの。その動きは、でも、何か機械的だったし、彼の目を見るとアンドロイドだと分かったわ。

彼は私の座っているベッドに腰かけると、

「こんにちわ。ビッグロッドって、いいます。?あなたは???」

「ローネって、いいます。」

「ゲーテンターク。ローネ。」

「ドイツ語で言わなくても、いいわよ。日本語も勉強したの。というより日本語の DVDROM を私の頭の中に入れるだけで日本語の辞書と文法がインストールされるから。そ

れと会話の文例も可能な限り収録された DVDROM だから、後は私の脳内で、それを活用できるように記憶するのね。そうしたら、すぐに高度な日本語の会話も展開できるわけ。」

ビッグロッドは驚かなかった。その辺がアンドロイドらしい。顔色一つ変えない彼にローネは、

「驚かないの? ああ、あなたの脳も同じなのかしら、わたしと?」

「いえ、違いますよ。でも簡単な会話なら世界の主要な言語は話せます。」

「あなたは、それでは完璧なアンドロイドなのね。」

「ええ、そうです。私は人間では、ありません。」

ローネは全裸なのだ。ビッグロッドの股間をローネは見たが、少しの変化もない。ビッグロッドの脳内は彼女の裸体に反応していないのだ。これでは『アンドロイドはセックスの時、腰を振るのか?』というタイトルどころか、セックスに移る行動もしないではないか。

羽目太郎監督が出てくると、

「すまないね。ビッグロッドはセーフティモードなんだ。解除するよ。」

と語ると、ビッグロッドの眉間の部分を右手の人差し指で

押した。途端にビッグロッドは「おおーっ。むおーっ。」と叫ぶとローネに、むしゃぶりつき、彼女を抱いた。みるみるビッグロッドの股間は、膨れ上がっていく。

ビッグロッドはローネに挿入したが、それから動かない。ローネとしても快感が得られないので、

「羽目太郎監督!アンドロイドは腰を振りませんよっ。」とビッグロッドを上に向けて抗議した。

羽目太郎監督は、

「すみません、ローネさん。ビッグロッドの尻の上にボタンがありますので、それを押してください。」

ローネが右手でビッグロッドの、その辺りを探るとボタンらしいものがあった。それを指で押すとビッグロッドは腰を前後に振り始めた・・・

と、ここまで語るとローネは流太郎に、

「それで私は絶頂を得られたけどビッグロッドは射精しないタイプの奴だったわ。」

と感想を告げた。流太郎は、

「それでAVの撮影は終わりかい？」

「いいえ、まだあるの。次に撮影したのが『セックスミラー一号でイクウ、ヨーロッパの旅』だったわ。」

「セックスミラー号って、なんだ、それ？」

「マイクロバスの大きさを、そのバスの側面にはガラスが覆ってあるのね。」

「マジックミラーのような物か？」

「それは、そうだけど、常識の逆に行くものなのよ。」

「それは?どんなもの？」

「考えたら、わかるでしょ。それはね・・・

ビッグロッドとローネを乗せたマイクロバス『セックスミラー号』はベルギーの某地方の公園に到着した。羽目太郎監督はバスを降りると、公園にいる人達に、

「セックスミラー号が到着したよー。」

とドイツ語で話した。実はベルギー語は古くから存在しないのだ。公園にいた若い男女の数十人はセックスミラー号の周りに集まった。彼らがバスの中を覗くと、ローネとビッグロッドがセックスしているのが見えた。

「わお、すごいな。中が、丸見えだ!」

「これが噂のセックスミラー号ね。日本人って、大胆。グータなAVだわ。」

と彼らはドイツ語で感想を話す。

セックスミラー号の車内では。ローネは真っ暗な中にベッドに横たわり、ビッグロッドを正常位で受け入れていた。

(外からは誰からも見られないし、安心して快感を感じられ

る。)

そう思うと彼女は自ら進んで、体位変更していった。

ビッグロッドの男の象徴は二時間は屹立に耐えうる。それは電力により作動しているし、メーカーはより長時間、動作するように改良を続けているというのだが・・・。

いきなりビッグロッドの男の象徴は萎えてしまい、彼もグニャリとして動かなくなった。

「どうしたの?ビッグロッド!?!」

とローネは叫声的質問を声にだしたが、返答はない。ビッグロッドは見かけは大きく筋肉隆々に見えるが、体重は、そんなにないのだ。ローネは片手でビッグロッドを自分の脇に追いやり、しぼんだ彼のモノを外した。

セックスミラー号の外で監視していた羽目太郎監督は、慌てて車内に入ってきて、

「電源切れだ。車を移動させるから。服を着て。」

と説明する。

ローネが下着と上着とスカートを身に着けると、セックスミラー号は移動を始めた。羽目太郎監督は少し困惑して、

「予想外に電力を消費したようだな。実はビッグロッドにも人工知能があり、眼で見た女との性の行動については様々にプログラミングされている。よって、だが我々には、

その行動は推測がつかないものなんだよ。ローネさんが美人だからビッグロッドは頑張ったんだろう。」

「まあ、そうなのかしら。お世辞がうまいわ、監督。」

「いや、人間の男性もね、美人には早く射精したいという一般的な性行動があるというからな。人工知能と言っても結局、我々人間の思考の反映なんだね。」

ローネは、そういうものかな、と思った。ベルギーの何処でもセックスミラー号の停車は認められていない。限られている場所でだけ停車でき、裸体から性行為までを認めているという。

その場所は大体、低所得者層の住んでいる場所でセックスミラー号の停車が認められているのだ。つまり低所得者は金銭で性衝動を解決できない場合、性犯罪に走りやすいというところから、無料で見れるセックスミラー号が日本から撮影に来たのを許可したらしい。

・・・

とローネは流太郎に語った。ローネに対して流太郎は性欲を感じなかった。彼は立ち上がると、

「楽しい話だった。それだけで君は僕の役に立ったよ。さようなら。又、会える日まで、ね。」

この流太郎の言葉にローネは何らの異を唱えない。流太郎

は部屋を出てフロントでアイジのクレジットカードで会計を済ませた。この国では仮想通貨は消滅しているとアイジから流太郎は聞いていた。

銀行の素早い対応が仮想通貨を絶滅に追い込んだらしい。

外へ出ると流太郎は涼しい季節なのを感じた。ここが地球を遠く離れた場所とは思えない。街路樹も地球と違いは、あまりない緑だし、通行人はヨーロッパの人に見える。もっとも、ここは名称がヨーロッパで、スイツの国なのらしい。日本は陽本(ひほん)という国名なのだそうだ。

商店街のような所に入り、パンを店先で売っているところでホットドッグをクレジットカードで買って食べた。店員は陽気なスイツの若者で白い帽子に白い服なのは地球のパン屋と似ていたが、彼はホットドッグらしいものを包んで流太郎に渡すと、

「はい、メルシーボクー。あ、地球の日本の人かな、ありがとうございます。ここのホットドッグは、この星の犬の肉も入ってるんだー。ぼく少し地球の日本語、話せるよー。」

包みを受け取った流太郎は、

「ほんと、ですか。犬の肉なんて食べれますか。」

「あー、食用に飼育された犬ならね。ほら、あそこの写

真。」

と彼は店内に飾ってある写真を指で示した。そこには豚のように太ったブルドッグが写真になっていた。

ホテルに帰るとアイジは、いた。流太郎に優しく、  
「ホットドッグを食べなさいよ。わたしはインスタント・ビフテキを食べたから、いいわ。」

「インスタント・ビフテキですか?豪勢ですね。」

「地球のカップ麺と同じく安いだよ。他の惑星に別荘を買いたいから、それとダイエットを兼ねて安いものを昼は食べてるのよね。」

「ホットドッグだと、よく分かりましたね。」

「それは犬の肉の匂いがしたからよ。」

「なるほど、そうですか。鼻が良いな。それでは、いただきます。」

流太郎は包みからホットドッグを取り出して食べた。

牛肉とも豚肉とも違う味で、さすがに犬の肉は、この味かと分かる。

ソファに座ったアイジは、

「まあ、座って食べたら、いいのに。でも、何か働きに行ってもらわよ。そうしないと、あんた、わたしのヒモになってしまうわ。」



流太郎はアイジに向かい合ったソファに腰を降ろすと、

「もちろんです。でも犬が豚みたいに太れるなんて妙ですね。」

と質問する。

「それはね、豚の DNA を犬に注入すれば、いいの。遺伝子操作は、この星では地球の比ではないから。」

「うん、そうですか、おいしい。働きに行きますよ。でも、何処へ行けば、いいんです?」

「AVパラダイスに行けば、いいわ。そこの社長、わたし知ってるの。何度か仕事も、させてもらったしね。」

流太郎は、(AVパラダイスという会社の話はアンドロイド・ラブドールのローネから聞いている。自分が、そこに働きに行くなんて。でも、いいか、それも。)

アイジのヒモになんか、なりたくない。そんな思いが彼の脳内でデモ行進していた。で、もって、

「行きます。ほく、やります。AVDD!」

「AVDD!って何の略語?」

「AV 出ます、出します、の略語です。」

「そうね、いっぱい出す事になると思うわ。ホットドッグでは精が、つかないわよ。あんたが一人前になるまでに、わたしのクレジットカードを貸してあげる。それで精のつ

く食べ物を食べなさいよ。」

という事になり、流太郎は昼から AV パラダイスのヨーロッパ支社に赴(おもむ)いた。受付のアンドロイドの若い女性が流太郎を見るなり、

「時さんですね。社長が、お待ちしています。エレベーターで最上階に行ってください。エレベーターは、あちらにあります。」

と右手の白い指を揃えて手のひらと共に、エレベーターの方角を示した。

流太郎が乗ったエレベーターが開くと、社長室の扉は開いていた。流太郎が一步、社長室に入ると、社長と羽目太郎監督が、いた。社長は目を輝かせて、

「いよう!時流太郎君だね。初めまして。うちにねー、スポンサーが、ついたんだ。インターネット動画の方でね。ヨーロッパの製薬会社、まあ、言ってみれば性薬会社というか、性の薬を作っているんだね。それ一本でヨーロッパの各国の株式市場に上場しているよ。それだけに固い会社なんだが、男のアソコを硬くするのが使命の会社さ。

AV にスポンサーが、つくなんて地球ではないだろう、え? 時君。」

アイジに時の出身星まで聞かされたのだろう、社長は、と

思いつつ流太郎は、

「スポンサーが、ついたのなら AV は無料で動画配信される、という事ですね。」

「そうなんだよ。驚きだろ?AV 生活三十年のオレだけど、こんな事が実現するなんて・・・もう、嬉しくって・・・。」

社長は顔を少し下に向けると感涙を眼に滲ませる。羽目太郎監督は、

「社長、いよいよ、これからですよ。カイザー社ですもんね、スポンサーは。」

と励ますように云うと、社長は、

「ああ。ドイツ語読みでカイゼルなんだ。地球でもドイツは、あるだろ?時君。」

流太郎は、うなずくと、

「ありますよ。地球ではヨーロッパ、いや、ヨーロッパの宗主国なんですが、ベルギーを EU の中心都市に置いて、自分達の国には置かない。ギリシアは永遠の貧困国で、それを巻き込んだユーロで通貨安を成り立たせている。これは計らずしてドイツに有利になったでしょう。」

社長は、

「そうだろうねえ。この星でもスイツ以外は、国名は地球

のヨーロッパと同じでね。アフロディナ女王の指針らしいが、それは女神のような女王だから我々の自由に、させてくれる。

女王は君臨すれども統治せず、なんて地球の何処かの国に、あったよね。」

流太郎は、

「ありましたっけ?知りません、そういう事はサイバーセキュリティと関係ありませんから。」

社長は驚いて、

「サイバーセキュリティの仕事をしていたのか、地球では。」

「ええ、それが何だか分からないままに、この星に連れてこられて AV 出演です。」

「なに、いいじゃないか。この国のね、いや、この星の AV 男優の地位は高いよ。地球ではハリウッドスター並というかね。」

流太郎は、金玉を鷲掴みにされた気がして、

「そんなにも、すごいんですか?この星の AV 男優は。」

羽目太郎監督が口を開くと、

「だって全世界配信されるんだよ、この星の AV はね。この星のハメリカは地球のアメリカだけど、かつてはハリウ

ッドみたいな所もあったけど、衰退した自動車産業のデトロイトみたいになっている。それは AV 動画に押されたんだ。」

と解説した。

社長は続けて、

「地球のハリウッドも映画を全世界に配給する事で巨万の富を得て来た。この星も似たようなものだったけど、ヨーロッパの逆襲として AV に白羽の矢を立てたんだ。

そして遂に勝利したんだ、映画にね。陽本の AV もヨーロッパと提携して発展できた。わが AV パラダイスは陽本の最大の AV メーカーで、ヨーロッパ支社とアメリカ支社を持っている。アメリカ支社では落ちぶれハリウッド、この星では今はハメウッドとよばれているが、その映画スターを高給で AV に出させている。彼らも結局のところは金だからね。

今度、カイザー社で、ドイツのね、CM ではハメウッド俳優のセックスシーン、もちろん演技なしにハメしているところをテスト的に収録予定なんだよ。君も時君、ハメウッド俳優を抜くくらいの覚悟で AV に出ないとな。」

確かに、この星にはアメリカという国があり、カナダとメキシコに挟まれている。オサンジェルスには丘があり、そ

こに

HAMEWOOD!

という大きな文字が並んでいるのだ。流太郎は胸を張り、

「ぼくも日本男児、ハメウッド男優を抜きたいです。」

と感慨を洩らした。社長は、

「よくぞ言った。時君、陽本の輸出産業の基幹はAVなんだよ。自動車メーカーより税金を払っているんだから。」

流太郎の目が満月になって、

「素晴らしいですね。高額納税者も、もしかして・・・。」

「もしかしなくても陽本の場合、AV男優が十位以内に入る事もある。」

「えっえっ、AV女優じゃないんですか?」

「いや、この星ではね、男優の地位が向上したんだよ。古い時代の地球の日本では肉体労働者の給料は安かった。それが後には、少しマシになったという、あれと同じかなあ。AV男優のストライキがあるところもあるんだ。うちではAV男優の労働組合は、ないんだが。それは高額に出演料を払っているからだね。立ててナンボ、ハメてナンボの世界だろ?」

「そうですねー、ぼくは関西言葉は分かりますけど・・・。」

「立てて、いくら、ハメて、いくらだよな？」

「そう!です。それは、それなしには AV 女優も動けませんし。」

「いい AV 男優のチンコが世界を救うんだよ。いわば、オレ達は救世の仕事をしているんだ。」

「パートナーの居ない男性をですか。」

「いやいや、女性も、そうさ。裕福な女性はラブボーイを購入して、それで遊べるけど、そんな金のない女性は AV を見て楽しむんだよ。だからカイザー社も CM を出すから女性向けの AV を作れ、と要求してきている。わが AV パラダイスでは、それも製作予定にしているし、時君にも頑張っ  
て欲しい。いつの日か、ハメウッド男優を抜けるよ、その位ならスグにでも。今、世界の高額納税者はヨーロッパの AV 男優も入るね。地球でもヨーロッパのサッカーが世界的人気でワールドカップをやっているようなものだな。ヨーロッパの AV 男優ってイケメンにしてイクメンなんだ。育児する男子の事じゃなくてな。・・・」

イク時の顔を競い合う「イクメン・ワールドカップ」だのもあるらしい。というのも日本語のイク、という言葉が「フジヤマ」「ゲイシャ」以上に広まったヨーロッパでは、フランスの AV 男優も絶頂時に「イク」と叫ぶのが流行ら

しい。

もちろん「ブッカケ」「ナカダシ」という言葉は、それなりにヨーロッパでも認識されつつあるという。

社長は講義を続ける。

「まあ、そこのソファに座って、時君。」

流太郎はピンク色の横長のソファに座った。社長と羽目太郎監督は流太郎の前に立っている。社長は、

「イケメンとイクメンでAV男優のランキングがある。イクメン男優の方が女性の投票も多いから、驚きさ。投票に際してプロフィールに年齢・性別・職業を記載の方には、わがAVパラダイスのAVの一割引きネット・クーポンをプレゼント、とかで情報が手に入るんだけどね。

イクメン男優ランキングでは、イク時の男優の顔がズラリとウェブに並ぶから、これを見るのは、おおまか女性だろうと我々は見ているけどね。」

流太郎は自分もイクメン男優ランキングに入るかな、と想像して(おいおいおい、おれは元サイバーセキュリティ対策の・・・)

社長は流太郎の顔を見て、

「ん、君が地球でやっていた仕事の男性という設定でも、いいぞ。」



と言うから流太郎は、

「はい、では、それで、お願いします。」

「おーし、それなら、そうするか。この星のスイツにもレマン湖というのがある。それに対して陽本の女性団体が「湖の名称を変更して欲しい。」と抗議したら、スイツは、どう対応したと思う、時君。」

「ヒマン湖なんて、どうですか。」

「いや、違うね。ハメマン湖に名称を変えたんだ。ワッハッハッハ。」

「ナルホド、粋な対応ですね、スイツも。」

「そうだろう?で、君の第一作目はハメマン湖で採る予定だ。」

AVパラダイスのヨーロッパ支社はベルギーのブリュッセルにある。ブリュッセルはヨーロッパの首都的存在だ。ベルギーからスイツまでは493キロ程だから、地球の東京と福岡は1000キロ程なので、約半分。とすると、その中間の大阪辺りが500キロ。スイツへの旅は、その程度の距離なのだ。

ハメマン湖はスイツとフランスの国境にあり、スイツでは湖として最大である。Lac leman が、Lac hameman とな

ったのである。陽本の観光客も多く行く。現地で手に入れられる観光パンフレットには Lac hameman と印刷されている。

現地でタクシーの運転手に、

“Wo Lac hameman?”(日本語での発音としては、ヴォー、ラック、ハメマン?日本語の意味は「ハメマン湖は何処ですか。」)と訊くと、

「ja(ヤー、意味は、はい。)」

と答えて連れて行ってもらえる。ドイツ語では ja がヤーなので、japan はヤーパン、なのだ。

ハメマン湖近くの駅で降りた流太郎、AVパラダイス社長、羽目太郎監督はタクシーに乗った。車中で社長は、

「あの列車に載っていた時に思いついたのが、『世界の射精から』というタイトルなんだねー。スポンサーがカイザーだけにヨーロッパロケは簡単さ。列車で旅しつつ、ヨーロッパの美しい風景を映し、列車の便所内でAV男優に女優と絡んで射精してもらおうという企画。どうだね、羽目太郎監督。」

羽目太郎監督は両手をポンと叩いて、

「いいじゃないですかー、社長。カイザーがくれる予算は凄いでしょ?」

「軽音楽を流して『世界の射精から』提供はカイザーです、とやろう、な?時君、どうかね、あん?」

流太郎はハメマン湖に近づく美しすぎる景色に見とれていたが、

「ぼくが絡むんですか、社長。」

「すべてに出なくても、いい。お、ハメマン湖が見えて来たぞー。」

豪華なクルーズ船も湖上に見える。又、湖上に古城らしき建物があるのもハメマン湖の特色だろう。クルーズ船でフランスに行ってもシェンゲン加盟国のため、国境審査はない。

シェンゲン協定による加盟国はアイスランド、イタリア、エストニア、オーストリア、オランダ、ギリシャ、スイツ、スウェーデン、スペイン、スロバキア、スロベニア、チェコ、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、フランス、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、マルタ、ラトビア、リトアニア、リヒテンシュタイン、ルクセンブルク、である。

地球のヨーロッパでは、この星のスイツがスイスであるだけで、地球のスイスはレマン湖という湖はある。